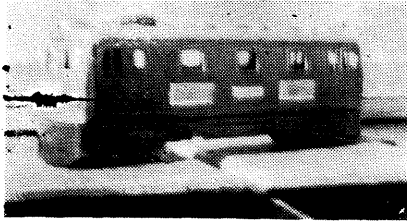


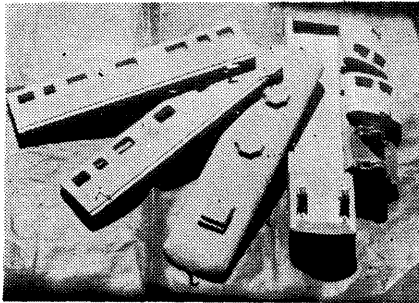
本テストに使用した玩具

(A)既製のもの

鉄製で色彩がほどこされ
れ音響を發する

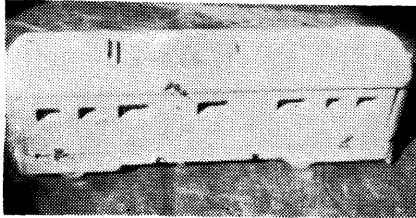


(B)素材 (木製で色彩はほどこされていない)



↑ 分解された状態

組立てられたもの ↓



調査時期

(一九六〇年11月上旬)

白石寿美子
後藤恭子
伊藤紀子

研究指導者
調査参加者
伊木愛子
具田富貴子
鎌田栄子
佐藤整子

加藤常吉

テスト時間	平均時間	46分
既製のみのみ	37%	21%
両方に	3%	76%

(2) 幼稚園や保育所に通っている子ども。
(3) 年令は4才から6才の者。ここでは5名を上げ、これらをA B C D Eと呼ぶことにする。
(4) 子どもは無作為(ランダム式)で選んだ。
調査の結果 下の表の通り。
結尾
下の表で明らかのように、Eを除いては幼児の玩具にはたらく興味は素材のものに対して絶対的である。Eの既製のものにむけられた関心には、この子どもが最年少であること、他の子どもにくらべて玩具をあまりもち合せておられないことなどが考えられよう。

A									
1. 性別・年令	男 5年3カ月								
2. 玩具を基とした生活環境	多くの玩具に接している								
3. テスト時の身体的条件(その他)	風邪のため発熱し元気がない。午後のため疲労が出てきた様子								
4. テスト時の心理的条件(疲労, その他)	おちついていた								
5. テスト時の場所(他の刺激如何)	子どもの家。他の子どもが外で騒しく遊んでおり、やや気持が散りきみ。検査には不適当な条件								
6. 検査者が臨んだその導き方と子どもの応じ方	好きな方で遊ぶように誘導すると「あゝ組立てだっちゃ」と云って既製より素材の方に興味を持ち、組立時間全体の96%を素材のもので遊ぶ								
7. 玩具に対する子どもの興味の起り方	はじめ素材・既製両方に手をつけたが素材の方に興味をもち解体した。すぐ組立てて始め約6分間で9分通り組立てたが一つだけホックがかからず放棄しようとしたので手伝って遊びを継続させた。二つの玩具を並べし相違点をあげ評価をした。好きなものは既製のものの方、とおもった。自分の玩具も入れたくないで遊んでいたものが、最後に素材に解体して遊びをやめた								
8. 興味の持続状態	<table border="1"> <tr> <td>全体時間</td> <td>26分間</td> </tr> <tr> <td>既製のみのみ</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>素材のみ</td> <td>96%</td> </tr> <tr> <td>両方に</td> <td>4%</td> </tr> </table>	全体時間	26分間	既製のみのみ	0%	素材のみ	96%	両方に	4%
全体時間	26分間								
既製のみのみ	0%								
素材のみ	96%								
両方に	4%								